第30講　敬意の方向

PART1　敬意の方向・敬語の重なる順番

★敬意の方向

「誰から誰に対する敬意か」「誰への敬意か」

（例）帝、少将に聞き奉り給ひ侍り。

★「誰から」→敬語の「　　　」確認。

●**地の文**＝「　　　」から。

●**会話文**＝「　　　」から。

★**「誰へ」**→敬語の「　　　」確認。

●**尊敬語**＝**主体**（〜　・　）へ

●**謙譲語**＝**客体**（〜　・　）へ

●**丁寧語**　→　敬語の「　　　」確認。

{ **地の文**＝「　　　」へ
{ **会話文**＝「　　　」へ

★**敬語の重なる順番**＝

（例）　女御、更衣あまた**候ひ**給ひける中に、…

第30講　PART1　確認問題

① 空欄a・bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「宣耀殿（せんえうでん）の女御、かたちをかしげにうつくしうおはしけり。」の傍線部は、「[a]」という意味の尊敬語である。地の文で用いられているため、[b]から宣耀殿の女御への敬意を表す。

ア　a　いらっしゃる　　b　作者　　　イ　a　おっしゃる　　b　作者
ウ　a　お仕えする　　　b　語り手　　エ　a　申し上げる　　b　語り手

② 空欄a・b・cに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「誰から誰への敬意か」の「誰へ」を考えるときは、その敬語の種類を確認する。[a]の場合は主体（〜は・が）へ、[b]の場合は客体（〜を・に）への敬意である。丁寧語の場合は、地の文であれば[c]へ、会話文であれば聞き手への敬意である。

ア　a　尊敬語　　b　謙譲語　　c　主体
イ　a　尊敬語　　b　謙譲語　　c　読者
ウ　a　謙譲語　　b　尊敬語　　c　主体
エ　a　謙譲語　　b　尊敬語　　c　読者

③ 傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

近衛府(このゑづかさ)に<u>さぶらひ</u>ける翁(おきな)、…

ア　尊敬語・翁から近衛府への敬意　　イ　尊敬語・作者から翁への敬意

ウ　謙譲語・翁から近衛府への敬意　　エ　謙譲語・作者から近衛府への敬意

④ 傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

（中宮のもとに）中納言殿<u>参り給ひ</u>て、御扇奉らせ給ふに、…

ア　「参り」は中宮を敬う謙譲表現、「給ひ」は中納言殿を敬う尊敬表現である。

イ　「参り」は中宮を敬う尊敬表現、「給ひ」は中納言殿を敬う丁寧表現である。

ウ　「参り」は中納言殿を敬う謙譲表現、「給ひ」は中宮を敬う尊敬表現である。

エ　「参り」は中納言殿を敬う尊敬表現、「給ひ」は中宮を敬う謙譲表現である。

⑤ 傍線部は、誰から誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

（法師は）かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たし<u>はべり</u>ぬ。…」とぞ言ひける。

ア　作者からかたへの人に対する敬意　　イ　作者から読み手に対する敬意

ウ　法師からかたへの人に対する敬意　　エ　法師から読み手に対する敬意

第30講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「おはし〔おはす〕」は、「いらっしゃる」という意味の尊敬語である。地の文で用いられている場合は、作者から主体（〜は・が）への敬意を表す。よって、アが正解。

② 敬意は、尊敬語の場合は主体（〜は・が）へ、謙譲語の場合は客体（〜を・に）へ向かう。丁寧語の場合は、地の文では読者へ、会話文であれば聞き手へ向かう。よって、イが正解。

③ 「さぶらひ〔さぶらふ〕」は謙譲語か丁寧語なので、ウかエに絞る。地の文なので、作者からの敬意。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語で、「近衛府に」という文脈であるので、近衛府への敬意。よって、エが正解。

④ 「参り〔参る〕」は尊敬語か謙譲語。「中宮のもとに行く」という文脈なので、謙譲語だと判断できる。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語なので、中宮を敬う。「給ひ〔給ふ〕」は四段活用なので尊敬の補助動詞。尊敬語は主体（〜は・が）に対する敬語なので、中納言殿を敬う。よって、アが正解。

⑤ 「はべり」は動詞の連用形についているので、丁寧の補助動詞。会話文なので、話し手（＝法師）から聞き手（＝かたへの人）への敬意を表す。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② イ　③ エ　④ ア　⑤ ウ